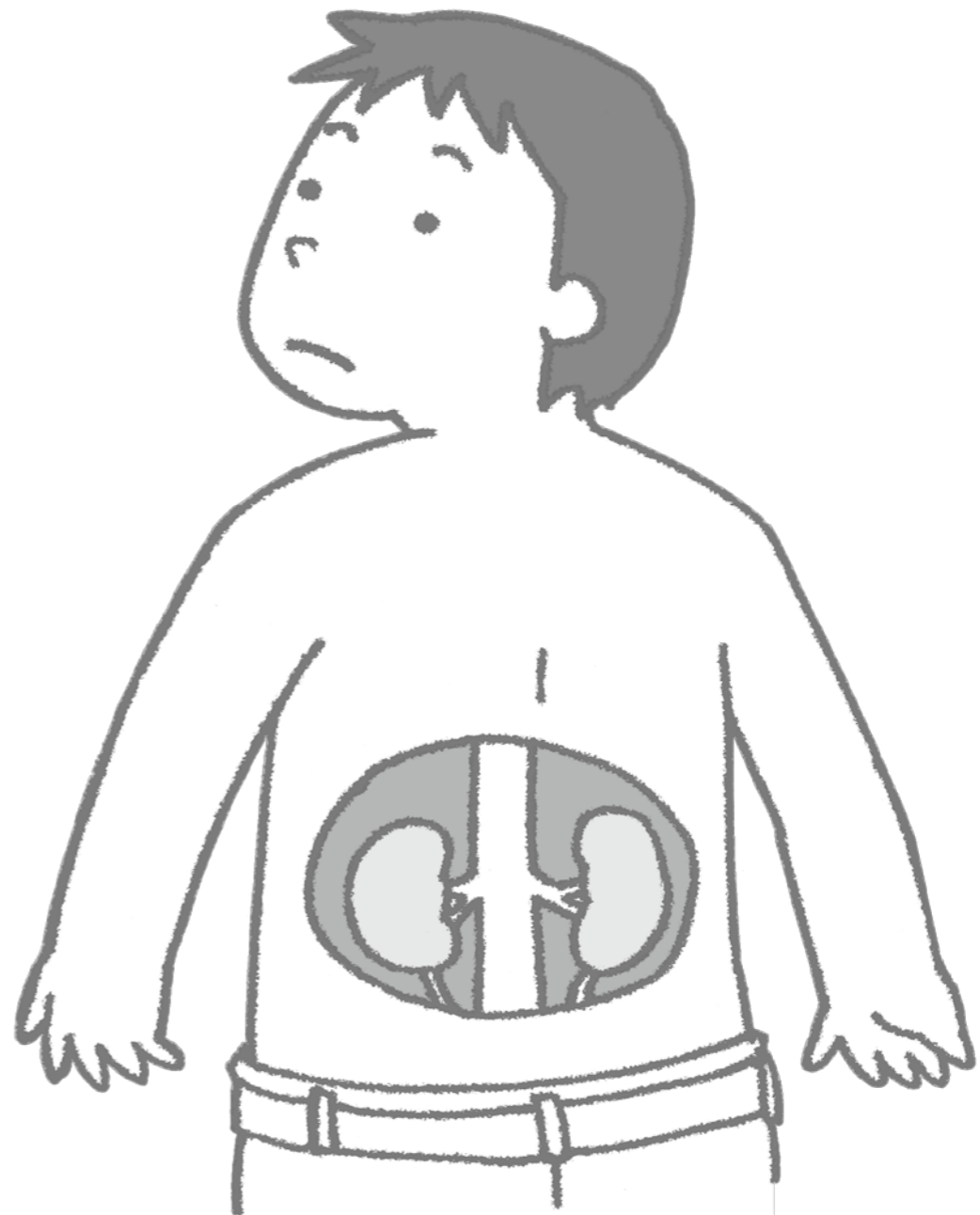


特定健診へ行こう！

ひそかに進む慢性腎臓病（CKD）を見つけるために



腎臓ってどんなもの？

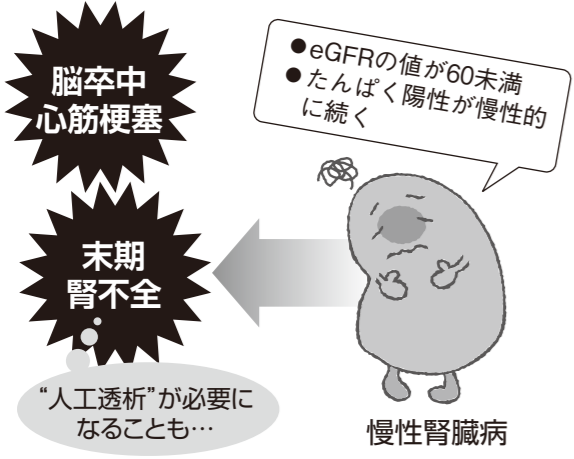
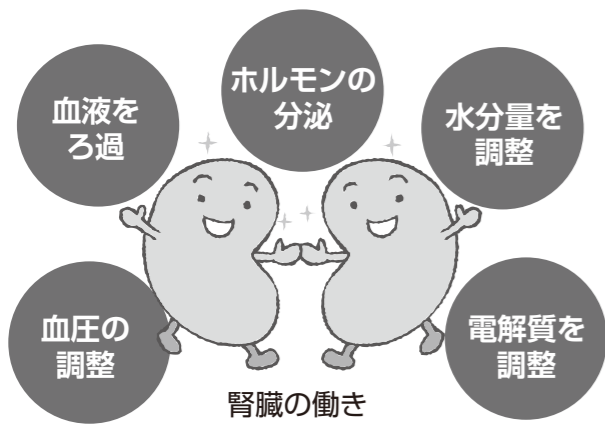
腎臓は、そら豆のような形をした握りこぶしくらいの大ささで、背中側の腰の上あたりに2個あります。1個の腎臓の中には、糸球体という血液をろ過する毛細血管のかたまりが約100万個あり、この糸球体で血液をろ過して老廃物や毒素を尿として体の外に排泄しています。

また、体内の水分量や電解質を調整したり、ホルモンの分泌や血圧を調整したりするなど、大切な役割を担っています。

慢性腎臓病ってどんな病気？

慢性腎臓病とは、①腎臓の働きを示すeGFRの値が60未満②尿検査においてたんぱく陽性が慢性的に続く、のいずれかまたは両方が3カ月以上継続した状態のことをいいます。このような状況で、むくみ・だるさ・貧血・はき気・食欲不振などの症状がある場合は、すでに末期の腎不全へ進行していると考えられます。

また、この病気の大きな問題として、脳卒中や心筋梗塞などの発症率が高くなるということがあります。



◆eGFRの値と腎機能の関係

| 病期 | eGFR | 腎機能 |
|-------|-------|-------------------|
| ステージ1 | ≥90 | 正常（ただし、腎障害の場合がある） |
| ステージ2 | 60～89 | 腎障害があり、腎機能がやや低下 |
| ステージ3 | 30～59 | 半分程度低下 |
| ステージ4 | 15～29 | 大きく低下 |
| ステージ5 | <15 | 腎不全 |

※eGFR（推算糸球体ろ過量）：腎臓から尿として排せつされる血清クレアチニンの値をもとに、糸球体が1分間にどれだけの血液をろ過できているかを推定した指標で、血液検査を行うことでわかります。健康な人のeGFRは100前後で、この値が低くなるほど、腎臓の働きが悪くなっていると考えられます。

成人の約8人に1人がかかっていると推計されている慢性腎臓病（CKD）が、大きな健康問題になっています。腎臓は、血液をろ過して老廃物や毒素を尿として流す大切な役割を持った臓器ですが、初めのうちは働きが悪くなくても自覚症状がほとんどありません。このため、気づいたときには末期の腎不全となり、人工的に血液を浄化する「人工透析」が必要になる場合があります。

このような中、市では、平成20年度から実施している「特定健康診査（特定健診）」において、腎臓の機能を調べる血液検査を実施。定期的に受診することによって、腎臓がどれくらい働いているかを確認することができます。

そこで今号では、慢性腎臓病について学ぶとともに、特定健診を受診する必要性について考えていきます。

●透析患者数は熊本県が1位

日本透析医学会の統計によると、2010年における全国の透析患者数は297,126人で、このうち、人口100万人に対する患者数は熊本県が1位（天草市は県内で4番目の多さ）となっています。

また、右グラフのとおり、全国の透析患者数は20年前の103,296人と比べて約3倍に増えていることがわかります。

◆全国の透析患者数の推移

